

Drafted pattern と Commercial pattern の比較研究

(第1報)

学生に対する実態調査

古川智恵子・加藤恵子・後藤喜恵

堀有井子・松井章子

Comparative Study of Drafted Pattern and Commercial Pattern

(Part 1)

Investigation on the Real Condition for Girl Students

by

C. FURUKAWA, K. KATŌ, Y. GOTŌ

Y. HORI and A. MATSUI

緒 言

最近、服飾メーカー、服飾雑誌、婦人雑誌等による Commercial pattern の普及がめざましく、ホームソーイングが我国でも成長しはじめている。中学・高校の家庭科教育においても、社会の発展に伴い、Commercial pattern 教育へと進展して行く傾向にある。これらの社会的、経済的背景は、注文服の仕立代が高くなった半面、既製服に満足しない婦人層がより個性的な装いへの欲求を高めて来たこと、主婦の余暇の増大、ミシンの普及等から家庭でも簡単に洋裁が出来るよう簡略化された型紙が普及して来ている。我々被服構成指導の立場からも社会の要求に伴い、従来の Drafted pattern のみに固執することなく、時代に即応した能率的で簡略化させる洋裁教育が必要と考える。そこで今回は、本学短期大学部家政科学生を対象に Commercial pattern の使用状況の実態とパターンに対する学生の今後の関心度について調査考察し、今後の洋裁教育の基礎資料とすることを目的とした。

調 査 方 法

表1 調 査 方 法

調 査 対 象	本学短期大学部家政科学生		
調 査 時 期	昭和47年4月下旬		
グ ル ー プ	普通課程	家政課程	合 計
人 数	436	63	499

表1の学生に対し、設問項目によるアンケート用紙を配布し、回答させ集計考察した。回答率は99.6%であった。

調 査 内 容

1. 中学、高校において製作した作品とその使用パターンについて。
2. 中学、高校における Commercial pattern について。
3. Drafted pattern における学生の将来の希望について。

結果および考察

我々がこのアンケートを調査するにあたりスカートを取りあげたのは、中学、高校、短大を通じて一貫教材であるとともに、パターン教育を検討する初歩的教材として適切であると考えた。またパターンの種類が多く、着用頻度も高いなどの理由からスカートを重点的にとりあげ調査を行うことにした。

1. 中学・高校におけるパターン教育

1) 中学・高校における服種別使用パターン

中学・高校における服種別使用パターンの種類についてみると図1のように、パターンを Drafted pattern すなわち各人が服種に応じて、その時時にスタイルブックを参考にしたり、創意工夫して各人の採寸に合わせて作図する方法と、Commercial pattern すなわちデパート及び専門店等に市販されている商業化されたパターン、または服飾雑誌等の付録パターンを

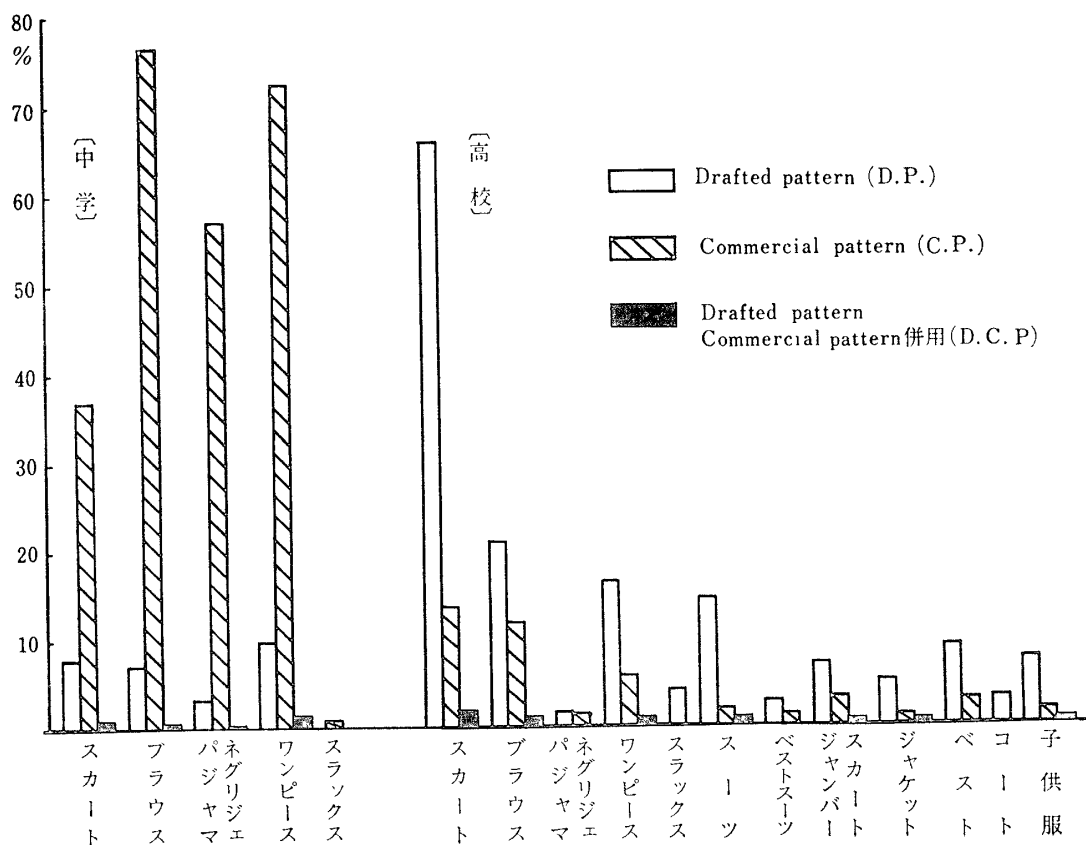


図1 中学・高校における服種別使用パターン

用いるものと、Drafted pattern と Commercial pattern の両方をその時に応じて使い分けるもの（以後 Drafted pattern を D. P. , Commercial pattern を C. P. , Drafted pattern と Commercial pattern の併用を D. C. P. と略す）の三通りについて調べた結果、中学においては、C. P. がブラウスでは76%、ワンピース72%、パジャマ56%、スカート37%、とD. P. のどの服種の比率においても圧倒的に高率を占めている。D. P. はワンピース9.4%、スカート7.2%の順である。また表2のようにパターン別に製作枚数を調べた結果、D. P. ,

表2 中学におけるパターン別製作枚数

服 種	パター 枚数	D. P.		C. P.		D. C. P
		1	2	1	2	。 2
ス カ ー ト	製作人数	36	4	185	1	3
	%	7.2	0.8	37.1	0.2	0.6
ブ ラ ウ ス	製作人数	33	2	379	2	1
	%	6.6	0.4	76.0	0.4	0.2
パ ジ ャ マ	製作人数	17	—	279	4	1
	%	3.4	—	56.0	0.8	0.2
ワ ン ピ ース	製作人数	47	2	360	3	6
	%	9.4	0.4	72.1	0.6	1.2
ネ グ リ ジ エ	製作人数	—	—	2	—	—
	%	—	—	0.4	—	—
ス ラ ッ ク ス	製作人数	—	—	3	—	—
	%	—	—	0.6	—	—
エ プ ロ ン	製作人数	—	—	3	—	1
	%	—	—	0.6	—	0.2
計		133	8	1211	10	11
%		94	6	99	1	100
総 合 計		141		1221		11
%		10		89		1

C. P. 共に中学では、ほとんど学校教材として製作しているのみで、C. P. は1枚製作が99%とほとんどを占め、D. P. においても94%の者が1枚製作であった。次にパターン別の比較では、C. P. 使用が89%と大部分を占め、D. P. は10%と低率である。高校では中学と反対にC. P. よりD. P. がどの服種にも多くみられる。D. P. の製作枚数の最も多いのはスカートで66%を占めている。次いでブラウス21%、ワンピース16%、スーツ14.4%、ベスト8.8%、子供服7.8%の順である。その他、図に示すようにジャンパースカート、ベストスーツ等低率ながら12種類の服種に扱われていることがわかる。表3のようにこれらの服種の製作枚数は、スカートでは、66%のうち1枚製作者が57.7%、2枚が6.6%、3枚以上で1.4%ある。ブラ

表3 高校におけるパターン別製作枚数

服 種	パターン	D. P.					C. P.			D. C. P.		
	製作枚数	1	2	3	4	計	1	2	計	2	3	計
ス カ ー ト	製作人数	289	33	5	2	329	63	5	68	9	—	9
	%	57.7	6.6	1	0.4	66	12.6	1.0	13.6	1.8	—	1.8
ブ ラ ウ ス	製作人数	77	16	10	2	105	51	8	59	5	1	6
	%	15.4	3.2	2.0	0.4	21	10.2	1.6	11.8	1.0	0.2	1.2
パ ジ ャ マ	製作人数	3	—	—	—	3	6	—	6	—	—	—
	%	0.6	—	—	—	0.6	1.2	—	1.2	—	—	—
ネ グ リ ジ エ	製作人数	3	1	—	—	4	—	—	—	—	—	—
	%	0.6	0.2	—	—	0.8	—	—	—	—	—	—
ワ ン ピ ー ス	製作人数	66	11	3	2	82	25	—	25	3	—	3
	%	13.2	2.2	0.6	0.4	16.4	5.0	—	5.0	0.6	—	0.6
ス ラ ッ ク ス	製作人数	17	1	1	—	19	—	—	—	—	—	—
	%	3.4	0.2	0.2	—	3.8	—	—	—	—	—	—
ス ー ツ	製作人数	55	16	—	—	71	7	1	8	2	2	4
	%	11.2	3.2	—	—	14	1.4	0.2	1.6	0.4	0.4	0.8
ベ ス ト ス ー ツ	製作人数	12	—	1	—	13	6	—	6	—	—	—
	%	2.4	—	0.2	—	2.6	1.2	—	1.2	—	—	—
ジャンパー スカート	製作人数	32	3	—	—	35	15	—	15	2	—	2
	%	6.4	0.6	—	—	7	3.0	—	3.0	0.4	—	0.4
ジャ ケ ッ ト	製作人数	23	2	—	—	25	5	—	5	—	—	—
	%	4.6	0.4	—	—	5.0	1.0	—	1.0	—	—	—
ベ ス ト	製作人数	44	—	—	—	44	14	—	14	—	1	1
	%	8.8	—	—	—	8.8	2.8	—	2.8	—	0.2	0.2
コ ー ト	製作人数	15	—	—	—	15	—	—	—	—	—	—
	%	3.0	—	—	—	3.0	—	—	—	—	—	—
子 供 服	製作人数	29	7	1	1	38	5	3	8	—	—	—
	%	5.8	1.4	0.2	0.2	8.0	1.0	0.6	1.6	—	—	—
計		665	118			／	197	17	／	25		／
%		85	15			／	92	8	／			／
総 合 計		783				／	214		／	25		／
%		76.6				／	20.9		／	2.5		／

ウスでは21%のうち1枚が15.4%，2枚3.2%，3枚以上2.4%，ワンピースでは，16.4%のうち1枚13.2%，2枚2.2%，3枚以上1.0%である。製作枚数は一枚製作者85%で最も多く，2枚以上製作は低率となっている。C. P. の中で多いのは，スカート13.6%，次いでブラウス11.8%，ワンピース5%で，D. P. に比べ低率となっている。これら全体の製作枚数も92%が1枚製作者で，3枚は極く一部分しかみられず，3枚以上は全くみられなかった。C. D. P. はどの服種にもほとんどみられず，わずかスカートに1.8%，ブラウスに1%みられるのみであった。これら三通りのパターン使用の比較は，D. P. 76.6%，C. P. 20.9%，D. C. P. 2.5%でD. P. 使用が多くを占めていた。以上のように中学においてC. P. 使用が多いのは，技術家庭指導要領の目的にもあるように，C. P. 使用によって体型や型紙を理解させ，各自の寸法に合わせて型紙補正をするようになっているため多数を占めているものと考ええる。高校においては，反対にD. P. 使用が多くなっているのは中学から高校への積み重ねとして，パターンにおいて立体構成のより高度な理解を深めるための一貫教育の現われと考える。

2) C. P. 種別知名度

次にC. P. の知名度を調べた結果図2のように最も高いのは不明57.2%であったが，これは調査の対象者が学生で学校製作がほとんどを占めており，その学校で実習した場合パターン名までは記憶していないため，不明の数値が高くなったものと考えられる。次に文化服装パターンは26.4%，服飾雑誌類は26%を占め，その内容は「若い女性」19.3%，「装苑」9.6%，「ドレスメーキング」5.8%などであった。また婦人雑誌付録類はわずか2%でそのおもなものとして，「主婦の友」「婦人画報」等にみられる。これらは家にあったものからパターン名を知ったものと思われる。

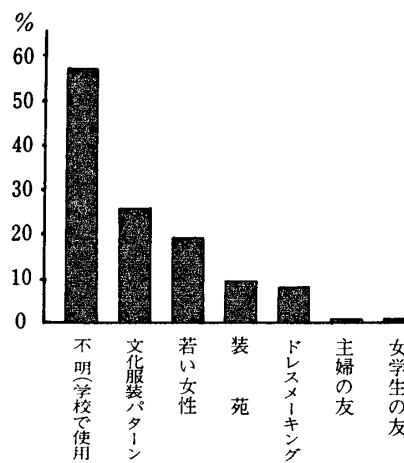


図2 既製パターンの知名度

2. C. P. のスカートについて

1) スカートおよび使用パターンの種類

高校においてスカート製作する場合，図3のように課程別使用パターンをD. P.，C. P.，D. C. P.，の3種類について調べた結果，その割合は普通課程ではD. P. 60.5%，C. P. 31.1%，D. C. P. 10.9%，家政課程ではD. P. 78.7%，C. P. 11.9%，D. C. P. 9.4%であった。いずれにおいてもD. P. は最も多くその中でも家政課程は約¾以上を占めていた。次に普通課程出身に対する1人当りの製作枚数の率について調査すると，普通課程ではD. P. 100%，C. P. 53.9%，併用はわずか19.0%であった。その結果1人当りの平均枚数は1.73枚製作していた。また家政課程出身者に対する1人当りの製作枚数についてみると，D. P. 200%，C. P. 30%，併用20.7%で1人当り平均枚数は2.5枚数製作となって約普通課程の2倍半製

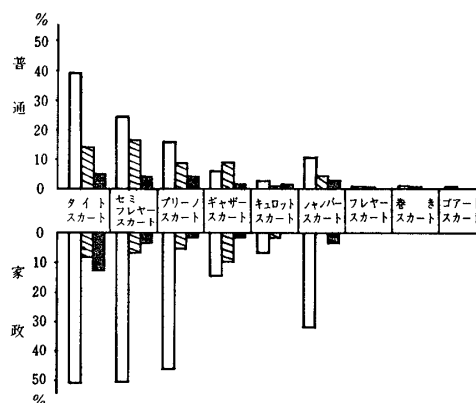


図3 スカートおよび使用パターンの種類

作していた。このように両課程の違いが現われたのは、被服構成における単位数や授業時間数の違い、应用能力や家庭製作の多少などに差が現われたものと思われる。また製作順位は両課程ともタイトスカートが最も高く、次いでセミフレヤースカート、プリーツスカート、ジャンパースカートの基本型から順次高度な形態の習得へと低率を示していた。

2) 使用状況

次に C. P. を使用する場合、型紙を「直さないでそのまま使用」か「直して使用」したかはパターンを利用する重要な要素を含んでいると思われるので調べた結果、図4のように家政課程出身者は73.5%と全体の約3/4が直していた。また普通課程では62.0%は直していた。家政課程出身者は授業においてパターンの補正方法など詳しく講義をうけ、应用能力に富み、普通、家政課程の授業時間差、製作時間差などの諸要因からこのような差が現われたものと思われる。

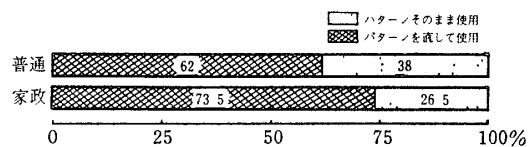


図4 使用状況

3) 補正箇所および着用感

パターンを直して使用した場合どの部位で補正したか丈、ウエストサイズ、ヒップサイズ、ダーツ幅、ダーツの長さなど6項目についてみた結果図5のように、普通課程では丈72%，ウエストサイズは56.0%，ヒップサイズは46.0%，ダーツの幅、ダーツの長さなどはわずかにみられた。また家政課程では丈74.0%，ウエストサイズ56.0%，ヒップサイズ44.0%，ダーツの幅

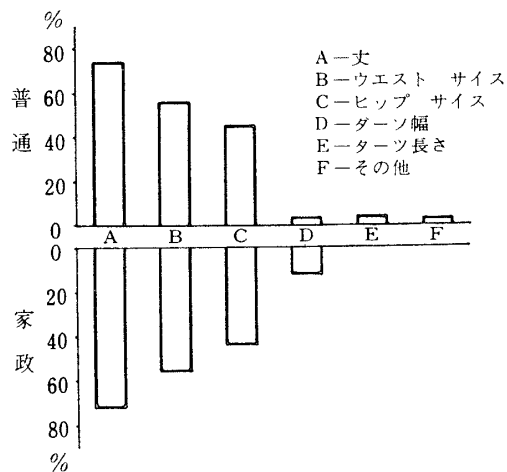


図5 補正箇所

12%などで両課程とも同じような出現率を示している。ダーツの幅、ダーツの長さなどのデリケートな部位、すなわち困難な個所では補正はされていない。これらの部位では着用者の観点が非常に幅広いためこのような結果が出たものと考えられる。我々はこのダーツの幅、ダーツの長さがスカートにおいては重要なポイントであり今後の研究課題でないかと考える。

図4で示した使用状況の割合の二つの層をさらに課程別において着用感についてみた結果、図6のように、「直して使用」の場合家政課程では、ピッタリは16.0%，まあまあは80.0%，合わないは4.0%である。普通課程ではピッタリは15.6%，まあまあは82.3%，合わないは2.1%でその差は余りみられなかった。

「そのまま使用した場合」家政課程では、ピッタリは22.3%，まあまあは66.8%，合わないは10.9%である。普通課程ではピッタリは7.1%，まあまあは83.7

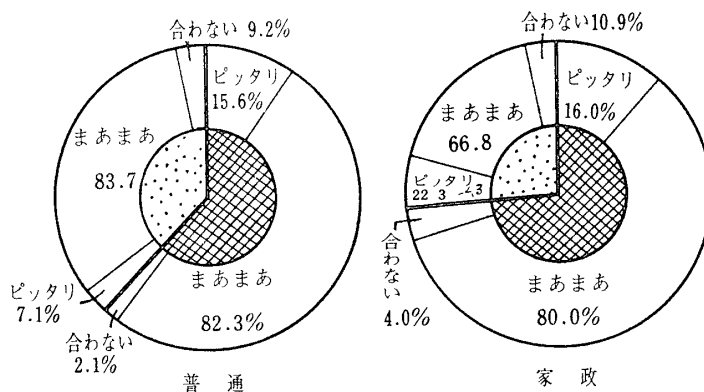


図6 着用感

%, 合わないは9.2%であった。以上家政課程では直さないで使用して、ピッタリ合った割合が22.0%で普通課程の7.1%に比べ高率を占めているが、これは学生の標準体型が多い、パターン選択眼が高い、採寸が正しいなどの結果と思われる。また「まあまあ」が両課程とも多く、その意味はいろいろな解釈ができ、その着用者の感度の許容範囲に個人差が出てくるものと考えられ、家政課程ではその許容範囲が狭く、普通課程では広くみられた。しかし「ピッタリ」が理想であるため、この層が高率を占めるようにすることが必要であると思われる。

次にパターン作図方法について調査した結果では図7のように、「服飾雑誌をみてから自己の寸法に合わせる」が52.8%で最も高く、次いで「服飾雑誌そのまま」は15.2%、「一部変更」は8.2%、「創意工夫」は3.1%、「その他」は20.6%であった。「その他」の内容は、「先生の製図をそのまま写して」「他人に製図してもらおう」などであった。着用感についてみると、「ピッタリ」は20.7%、「まあまあ」78.1%、「合わない」1.2%であった。また「自己の寸法に合わせて」「一部変更」などは他の項目に比べ、「ピッタリ」の割合は高率を占めていた。次に作図能力の面からみると、「創意工夫」は3.1%と最も低率であるが、この層は应用能力を高く評価してよい層であると考ええる。次に「一部変更」と「服飾雑誌をみて自己の寸法に合わせる」の2項目は作図ができ、应用能力所有者とみなされ、今後我々の指導いかんによって潜在能力開発可能に最も近い学生とみなされる。「服飾雑誌をそのまま写して」と「その他」の層の約35%の人は全く应用能力を持たず、作図を依存した層である。その層に対しても製図を駆使する能力養成へと指導を加えてゆかなければならないと考えるものである。

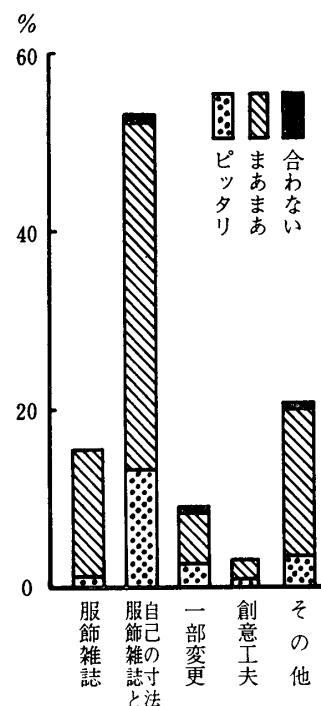


図7 Drafted Pattern と着用感

次に将来のパターン使用方法について、その希望を図8でみると、D. P. は30.9%, C. P. は9%, D. C. P. 60.1%で併用してゆきたい者が最も多かった。その理由についてみると、D. P. は「体にピッタリ合う」は18.4%、「好みに合うことができるから」は10.2%と流行や嗜好の面に重点をおかれていた。またC. P. では「手早く便利だから」は7.2%、「考えなくてよい」「型がよい」など、他から与えられたものをそのまま受入れるような一面消極的な衣生活態度とみなされる。併用希望についてみると「服種」「用途」などの目的により使いわけてゆきたいとか、C. P., D. P. のパターンを「時に応じて使いこなせる能力を持ちたい」などの積極的な態度がみられた。今後ますます併用希望者が増加するものと思われる。

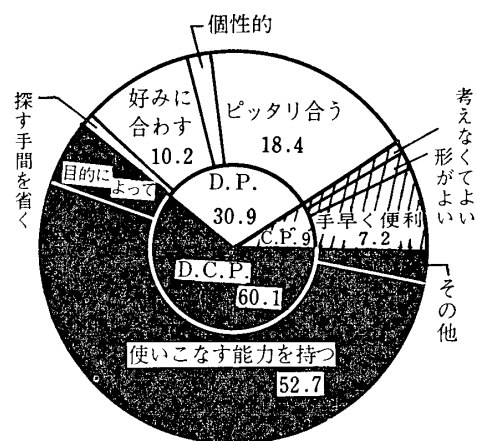


図8 将来のパターン使用希望

我々指導者もみのがすことのできない問題であると考ええる。

ま と め

1. 中学では C. P. 使用, 高校では D. P. 使用の割合が顕著にみられた。中学・高校において, スカート製作枚数はほとんど一枚であった。

2. 高校における家政・普通両課程についてみると, スカート製作ではタイト・スカートの基本型が多くみられ, C. P. は直して使用が多く, 補正箇所においても直しの簡単な丈に最も多くみられ, 次いでウエストサイズ, ヒップサイズの順であった。着用感は各項目ともまあまあの満足感をもち, 合わなかったものはきわめて低率であった。

3. D. P. では全体の 2/3 の層は応用能力を有していると思われる。

4. 将来の使用パターンは C. P. と D. P. の併用を多く望んでいた。

以上のような結果であったが, 中学校では C. P. の教育を受け, 高校では D. P. で平面作図を既習している学生に対し, 短期大学においては, D. P. にのみ固執することなく, C. P. の教育をも取り入れ中学, 高校の学力の積み重ねのうえに短期大学教育では, いかにあるべきかを考慮し, その教育完成へとめざしてゆきたいものである。そこで既習学力をさらに応用展開できる能力を短大において開花させることが, 我々の今後の大きな課題であると考えられるものである。

参 考 文 献

- 1) 中学校学習指導要領 1972 文部省
- 2) 技術・家庭 I 1972 開隆堂
- 3) 家庭一般 1972 実教出版株式会社